

# Hem21

## NEWS

公益財団法人  
ひょうご震災記念21世紀研究機構  
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である  
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **35** 平成24年  
(2012) 9月

### CONTENTS

- 1~2 第13回アジア太平洋フォーラム・淡路会議  
国際シンポジウムを開催  
(8月3日)
- 3~4 グローバル化と中小企業の  
展望
- 5 情報ひろば
- 6~8 人と防災未来センター  
MIRAI

#### ■記念講演

### 「世界文明史的な 実験をめざして」

山崎 正和  
(劇作家)



#### 1. 世界観の統一と世界共通文明の形成

文明の成立には世界観の一致が必要となるが、現在、環太平洋地域に生きる人間は、広い意味での自然科学を共通の世界観としている。また、世界の五大宗教が極めて友好裏に存在しており、そこに日本の神道のような土着信仰も平和的に共存している。今、世界的に文明は統一の方向へ向かいつつあるが、環太平洋地域はその先陣を切ってきた。

#### 2. 異文明の共存と進化

西洋文明は、全く異質の二つの文明の統合によって生み出された。一つはヘレニズムという、ギリシャで生まれた合理主義の社会観である。もう一つがユダヤ教的な、真実は唯一絶対という信念だ。この融合から生み出されたのがキリスト教であり、この二つの思想を同時に持つ宗教はほかにない。キリスト教は、神が世界を創造したという信念の一方で、自然をどう説明すればつじつまが合うのかということに多大な関心を寄せた。するとたちまち矛盾が生じ、キリスト教と初期の科学は激しい葛藤を繰り返すこととなった。しかし、科学自身がキリスト教の持っていた、正しいことは一つしかないとする一元的な信念を引き継いだものなのである。そのため、地動説を主張して火あぶりの刑に処されたブルーノをはじめ、多くの科学者が殉教者のごとく命を落とした。

さらに、ヨーロッパは他の大きな文明圏と違い、小さな国々が併存する文明を持っていた。これは文明の進化にとって極めて有利な条件となる。文明は、他国に移って受け入れられたり迫害されたりすることで、互いに切磋琢磨しながら強く育っていく。したがって、他国から文明を輸入することは、誇りでこそあれ、恥ずかしいことでは決してない。

#### 3. 環太平洋文明圏の形成に向けて

日本に大きな歴史的貢献があるとしたら、西洋で生まれた「近代文明」をアジアで初めて受け入れ、これを実のある形にまとめたことだ。中国は、中華文明のみが存在し、他に文明があることは一切認めない華夷思想をとって

## 第13回アジア太平洋フォーラム・淡路会議 国際シンポジウムを開催(8月3日)

た。一方日本は、中国を偉大な外国文明として受け入れながら、それを雑種強勢することに努めた。その経験を踏まえ、日本は西洋文明と思われていた世界文明をも受け入れた。逆に言えば、日本が受け入れたことで、西洋文明が初めて世界文明になった。

第二次大戦後、日本は環太平洋諸国と友好を深めようと積極的に努力し、北米やオセアニアと関係を深めることで、アジア地域に多くの人々を招き入れた。また、新興国に対しては、ODAの援助やJICA、国際交流基金の活動を通じ、地域の融和と文化交流を大きく促進した。さらに、民間の資本・技術の移転は環太平洋の新興国家を勇気づけ、現在の世界経済を見ると、GDPの世界トップ3は環太平洋地域が占めている。

今後、この趨勢を引き継ぎ、さらに強めていくことが日本の進むべき道である。そこで注目されるのがTPP(環太平洋パートナーシップ)だ。国内では、農業や国民皆保険制度の存続が危ぶまれるとして反対の声も大きい。交渉のやり方次第でそうした問題も乗り越えていけると考える。

農業に関しては、和牛や日本米が世界の富裕層に人気を博しているという状況を生かし、生産性を上げつつ輸出に転じていく戦略を採ることができる。保険制度については、かつてデンマークがEC(欧州共同体)加盟時に採った高次元のところで調和を図る「ハーモナイジングアップ」の戦略が応用できる。これは、実現は難しいが否定もできない理想とされる目標を掲げ、これを共通の目標にしようと言って交渉するものだ。当時、ECはドイツとフランスが先導しており、デンマークは後発加盟国として入ったため、自由貿易・無関税という条件を一方的に飲まされる心配があった。ヨーロッパ随一の環境保護先進国となっていたデンマークは、経済の自由化を受け入れる代わりに、環境保護を重要な制限情報として入れることをドイツやフランスに迫った。これには誰も抵抗できず、結局デンマークの意向が通り、EUでも環境保護は大きな趣旨の一つとして継承されている。

方法はさまざまあるが、最終的な目的は環太平洋文明圏を前へ進めることだ。その反対概念である華夷秩序は、決して再現してはいけない。中国の一方独裁を攻撃するつもりはないが、他国に軍事力を派遣し、領土を脅かす行動は看過できない。そのために、我々は抑止力としてアメリカの軍事力を背景に持つていなければならない。その意味で、TPPは純然たる経済問題ではなく、華夷秩序か環太平洋文明圏かという選択であり、日本の未来は後者にしかない。

## ■記念講演

## 「日本『再創造』～『プラチナ社会』の実現に向けて」

小宮山 宏

(プラチナ構想ネットワーク 会長/株式会社三菱総合研究所 理事長/東京大学 総長顧問)



## 21世紀のビジョン「プラチナ社会」

今、先進国の人々は、衣食住はもちろんモビリティや情報までさまざまなものを誰もが持てる社会になっている。だが、欲しいものがなくなると経済は終わってしまう。そうならないために今後、目指すべき社会を私は「プラチナ社会」と定義している。その社会の要素としては高齢者も含め誰もが参加でき、雇用があること、エネルギー資源の不安がないことなどがあり、エコであることも重要な条件となる。

高齢化は21世紀に人類が共通して遭遇すべき課題であり、日本だけの課題ではない。先進国すべての課題であるばかりか、新興国をも巻き込む人類全体の課題なのである。

プラチナ社会の実現に必要なものは、まずは美しい生態系である。今後は公害克服にとどまらず、多様な生態系を守っていかねばならない。また、日本は資源がないためにエネルギー資源を輸入に頼っているが、今後は自給に向かう必要がある。エネルギーの多様化や新エネルギーの導入を図れば、自給率70%も夢ではない。大型の火力発電所では、発電時にできた湯は海に捨ててしまうが、それならば100万軒の家庭にコージェネレーションを導入する方が効率的だ。省エネ市場へ向けた新しいイノベーションが考えられる。

## ■記念講演

## 「地域の未来—あわじ環境未来島構想の推進—」

井戸 敏三

(兵庫県知事)



## あわじ環境未来島構想について

淡路島は「島」であることで地域開発が遅れ、明石海峡大橋の完成後も、高額な通行料がネックとなっている。また、10年で人口が1割減少し、域内総生産額は約15%減少するなど厳しい現状にある。その一方で、国生み神話や人形浄瑠璃等の歴史的・文化的価値の蓄積、高い食料自給率、豊かな農業環境など高いポテンシャルがある。さらに、京阪神の大都市圏へのアクセスが非常に良好であり、平成26年度以降は明石海峡大橋の通行料が引き下げられる予定である。オールドタウン化が進む大都市の高齢者が充実した生活を維持できるかどうかを考えると、大都市に近く、これだけのポテンシャルを有する地域を活用することには、大きな意味があると考えられる。

## 1. 構想のねらい

まず、効率や利便性を重視した大都市依存型の効率成長モデルへのアンチテーゼとして、生活の質や豊かさを求める持続成長モデルを考えていく。さらに、住民・企業・行政の三者が協働、協調しながら、産業を創出し、地域を持続させていこうと考えている。淡路島は、少子高齢化と雇用減少、後継者不足といった地方共通の課題が凝縮しており、農村と漁村、市街地が隣り合う日本の縮図の要素がある。そこで大都市依存(超高齢化、高コスト)を乗り越える「まち」から「むら」への漸

それから、断熱住宅を普及することで林業に需要が生まれる。木材確保のために木を切れば荒れた森林の回復にもなり、製材から出るチップを燃やすことで原子力発電所5基分のエネルギー供給が可能となる。さらに、断熱住宅に住むことで、高齢者のヒートショックやカビによる有病率が格段に減少する。つまり、断熱住宅は省エネだけでなく、健康をもたらす、医療費削減にもつながる。

エネルギー自給率を増やし消費を減らす方法として、金属のリサイクルが挙げられる。金は掘っても1tに5gしか採れないが、携帯電話1台には250gも含まれている。それらを回収してリサイクルの方が効率がよい。文化や技術があって資源のない日本にとってまさにチャンスである。日本は課題先進国から「課題解決先進国」として、世界のロールモデルになるだろう。

プラチナ社会実現の条件として、長寿を楽しめる社会であることが挙げられる。長期介護が必要な高齢者は全体の2割で、それ以外は健康状態を維持している。従って、その8割をどうするかに着目すべきである。良い高齢社会をつくることで社会の負担も減らすことができ、そこに新たな産業が生まれる。

プラチナ社会に必要なことは、①エコロジー(公害克服、生物多様性、地球環境)、②資源への心配をなくすこと(省・新エネ、一次産業、循環型)、③老若男女の社会参加、④心も物も豊かであること、⑤雇用の確保である。

また、この社会づくりは中央集権ではなく、やる気のある自治体をベースに進めるとよい。各地での事例を構造化し、それを知識として共有し、すぐに実行するというサイクルで、自主的にプラチナ社会を創造する人々の出現が望まれる。

流形成を淡路島で築きたい。

## 2. 取り組みの柱

取り組みの3つの柱は、地域資源を生かした再生可能エネルギーをベストミックスして、豊かさと同立するエネルギー消費の最適化を図る「エネルギーの持続」、安心と健康を支える食の生産・供給拠点をめざす「食と農の持続」、その集大成としての「暮らしの持続」である。推進に当たっては、「地域活性化総合特区」を活用し、誰もが安心して生涯現役で暮らし続け、国内外から人が集い、交流と活力が広がる島を目指している。

## 3. 主なプロジェクト

エネルギーの持続として、多様な再生エネルギー源をフル活用してエネルギー自給島を実現すべく、大規模太陽光発電所の整備、強い西風を生かした風力発電や強い潮流を生かした潮流発電の検討、さまざまなバイオマスの複合利用やバイナリー発電等を組み合わせた農漁村型スマートビレッジづくりなどを考えている。また、農と食の持続としては、人口減少・高齢化に対応した農業後継者の育成や多彩な農水産物の安定供給や地産地消の仕組みづくりを目指し、チャレンジファームによる人材育成、廃校を拠点としたエコ植物工場における薬草栽培、漁船の電動化・ハイブリッド化による漁業のグリーン化などに取り組んでいる。さらに、暮らしの持続として、大都市部の高齢者の受け皿になる健康長寿島の実現に向け、高齢者に優しい交通システムの構築などを進めていく。

社会資本整備の遅れなど課題もあるが、ふるさと意識を高揚させ、明石海峡大橋の通行料引き下げを活用した人を呼び込む仕組みを考え、市民と企業、行政が一体となった元気な島づくりを進めていきたい。

# グローバル化と 中小企業の展望

主任研究員 長谷川英伸



## 1、グローバル化の進展

1985年のプラザ合意後の急激な円高の進行によって、日本の製造業は生産拠点を国内から海外に移転する動きが活発である。東アジアの発展途上国の成長に伴い、国際的に競争が激化するなかで、より安い労働力を求めて海外における生産拠点を強化する動きに加えて、日本経済の低迷により、国内需要も低迷している。そこで、活路を見出すために、企業は海外進出を活発に行っているのである。しかし、現地生産や海外市場への活動を拡大しているのはいわゆる大企業である。大企業と比較すると経営資源が乏しい中小企業にとって、海外進出すること自体が困難である場合が多い。

大企業を中心とする現地生産の拡大は、国内製造業における中小企業の生産活動に変化をもたらしている。つまり、国内のものづくりを海外に移転することによって、国内完結型の分業構造が変化し、中小企業の取引量、取引先数等が減少している。このような状況をグローバル化と呼ぶことができるならば、グローバル化は、産業の空洞化によって雇用や税収の減少につながり、特にものづくり製造業に携わる中小企業にとって、売上高の減少に拍車を掛けていることになる。しかし、中小企業が国内に留まることが産業の空洞化を食い止める最善策とはもはやなり得ない。何故なら、産業空洞化といったグローバル化の負の側面のみならず中小企業のグローバル戦略を支援することが今後の地域経済に好影響を及ぼすとの視点も考えなければならないからである。以下からは、中小企業の海外進出の動向を把握しつつ、兵庫県内の中小企業の海外進出を支援する意義を模索していく。

## 2、グローバル化の影響と中小企業経営

中小企業が存立維持していくためには海外市場に目を向け、新たな取引先の拡大を目指す中小企業の経営行動が着目されている。だが中小企業が海外進出を図れば、より一層の産業の空洞化が加速するという懸念もある。現実をみれば、国内市場のみをターゲットにした事業展開では、人口の減少等の影響により、先行きは不透明である。また中小企業自体が存立維持できなければ、雇用等も維持できない。海外進出後、中小企業の売上増加、国内工場等への波及効果、といったメリットも当然考えられる。

以下からは、兵庫県内の中小企業で海外展開している事例を3つ取り上げる。まずは金属部品の板金加工を主たる業務としているA社を説明する。A社は、自社製品の強みを生み出す(コスト面)ために、中国での現地生産に乗り出した。A社は海外進出の当初の目的はあくまで現地での部品調達にあったが、現在では現地生産、現地販売をも手掛けている。国内工場では、製品開発、マーケティングに力を入れており、現地工場は製造に特化している。次に洗浄機・油圧機器部品の製造販売を行っているB社を説明する。国内生産に重点を置いており、自社の製品を中国で販売するために、現地販売拠点を中国に構えているB社は、日系企業からのコストを重視した製造の受注よりも、B社にしかできない製品開発、製造を目指している。今後は、自社の製品のアフターサービスを担う現地拠点を設置する戦略を立てている。最後に鞆販売を行っているC社を説明する。C社は海外のデザイナーとの交流を積極的に行い、独自性のあるデザイン開発を行い、地元のメーカーに鞆の製品製造を委託し、自社製品として販売している。また、海外のデザイン賞を獲得することにより、国内市場での自社のデザインの付加価値を高めることに成功している。

以上のように、兵庫県内の中小企業の海外展開の事例を取り上げたが、海外に進出した後では同社にどのようなメリットをもたらしたのかを検討する必要がある。A社は中国に進出したことによって、コスト競争力を得ることに成功した。また、海外で製品を製造することで、国内の製品開発に経営資源を集中することができた。これにより、新製品開発等の効率化が図られている。B社は製品開発と製造を国内で行うことで熟練労働者の高度な技術力を背景に、自社だけにしかできない製品品質を確立している。また、海外市場に自社製品を売り込んで海外からの利益を吸収し、国内の工場の拡大に成功している。C社は海外のデザイナーとの交流により、自社製品のデザイン力が向上している。また、海外でのデザイン賞の獲得により、百貨店等のバイヤーに注目され、マーケティング力を強化できている。さらに、C社のデザインする鞆製品が売れるほど、自社の地元のOEM先のメーカーが業績を伸ばすことにもつながっている。このように海外進出している中小企業は自社の強みを生み出し、存立基盤を強化しているのである。

### 3、中小企業のグローバル化の課題

中小企業の海外進出は、新たな市場を開拓し、製品・サービスの供給先の確保につながる。その反面、前述しているとおり海外進出が産業の空洞化を引き起こすという考えもあるが、兵庫県内の中小企業の海外進出によるメリットがデメリットを超えれば、兵庫県の経済活性化につながる可能性がある。国内世論の一部では、工場の海外進出や海外展開を海外移転という言葉に置き換えて、産業の空洞化であるとか国内雇用の喪失、といったことと結びつける向きもあるが、それは一面的な解釈ともいえる。今後、日本の中小企業政策を考えると、特に中小企業の場合で言えば、積極的に海外との貿易、あるいは工場進出をする企業ほど、国内の工場が成長している場合も見受けられ、その事例をもとに戦略産業を規定しようとしている。そうすることで中小企業の体力を蓄え、国内においても新たな付加価値の高い分野で新産業を起こす中小企業の価値創造が展開される。海外に活路を求め、国内でも利益をもたらす産業、雇用構造のあり方を考え

る必要がある。

一方で、兵庫県内の中小企業のなかには、県内に留まって事業展開を行っているケースもある。兵庫県内における海外進出している中小企業と県内に留まる中小企業との接点も考えなければならない。海外進出している中小企業は海外市場から収益を吸収しており、その収益を県内に留まる中小企業にも行き渡らせる仕組みが必要となる。この仕組みを考える上で、分業構造に着目する必要があるのではないかと。日本の高度経済成長の折には、最終製品を国内で分業し、海外に最終製品を輸出することで、中小企業が利益を得ることができた。しかし、現在では分業構造は東アジアに広がっており、国内で最終製品が完結する分業構造は成り立たなくなっている。今後の中小企業のグローバル化の課題として、いかに国内に留まる中小企業と新たな分業構造を構築できるかが問われている。本機構の研究会「中小企業における海外事業展開の動向と課題」のなかで、この課題を克服できるように努めたい。

## HAT神戸 掲示板

### 兵庫県立美術館

#### バーン＝ジョーンズ展 ー英国19世紀末に咲いた華ー

19世紀後半のイギリスで活躍したエドワード・バーン＝ジョーンズ(1833-98)は、甘美で幻想に富み色彩豊かな独自の絵画世界を展開し、西洋美術史で異彩を放っています。屈指のコレクションを誇るバーミンガム美術館をはじめ各国の美術館やコレクターの協力を得て、油彩画の代表作からタペストリーや挿絵本に至るまでの約80点の作品を展示し、巨匠の全貌に迫ります。

■会期＝10月14日(日)まで  
 ■観覧料＝一般1,300(1,100)円、大学生900(700)円、高校生・65歳以上650(550)円、中学生以下無料  
 ※( )は20人以上の団体割引料金  
 ※障害のある方とその介護の方1人は当日料金の半額(65歳以上を除く)  
 ※割引を受けられる方は、証明できるものをお持ちの上、会期中に同館窓口で入場券を購入してください



《眠り姫》一連作「いばら姫」1872-1874年頃  
 ダブリン市立ヒューレーン美術館蔵(ダブリン)  
 ©Dublin City Gallery The Hugh Lane, Dublin

●休館日＝月曜(10月8日は開館し、9日に休館)  
 ●開館時間＝10時～18時(金曜・土曜は20時まで)  
 ※入場は閉館の30分前まで  
 ※同時開催展「パール 海の宝石展」(10月14日(日)まで)、「コレクション展Ⅱ」(11月4日(日)まで)  
 TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

### 日本赤十字社 兵庫県支部

#### いのちと健康を守る赤十字の活動にご協力ください

日本赤十字社兵庫県支部では、「街角の赤十字」として県内の交番や派出所に救急箱を、また心拍停止例の救命率向上のため、県内の警察施設へAEDの設置を行っています。そして、救急法などの講習会を開催し、皆さまご自身がAEDを使った心肺蘇生を行い、人のいのちを守れるように、知識と技術を身につけていただいています。

他にも、災害救護活動、青少年やボランティアの育成、赤十字病院や献血運動など、さまざまな活動に取り組んでいます。

これらの活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金により支えられています。赤十字の活動に、また資金にご支援、ご協力をよろしく願います。



◎お問合せ先  
 日本赤十字社兵庫県支部  
 お電話から TEL 078-241-9889(代表)  
 パソコンから

### JICA関西

#### ◆見ることから始める国際協力!

JICA関西映画鑑賞会「happy - しあわせを探すあなたへ」  
 経済的に豊かになったものの、ストレスの多い日本社会。GNH(国民総幸福量)で話題のブータンなど世界5大陸16カ国を巡り、心理学者や脳医学者と「幸せになる方程式」を明らかにするドキュメンタリー映画を上映します。これを観れば、あなたの幸せの答えが見つかるかもしれません。



Produced by UNITED PEOPLE

■日 時＝10月6日(土)13時30分から15時まで  
 ■会 場＝JICA関西  
 ■参加費＝無料 ※事前申込み必要  
 ▷お申込み方法  
 お名前・所属・連絡先を明記の上、メールまたはFAXでお申込みください。メールの場合、件名を「JICA関西映画鑑賞会参加希望」としてください。

#### ◆食べることから始める国際協力! JICA関西食堂 月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(飲物付¥700)の10月はパラオ料理、11月はミャンマー料理をご用意します!珍しい料理を食べて、世界を感じてみませんか?



(参考)9月中南米料理

メニューの詳細と写真については、こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>  
 ■営業時間＝(昼)11時30分から14時まで (夜)17時30分から21時まで  
 ※各終了30分前ラストオーダー  
 ■定休日＝年中無休(但し、年末年始を除く)

#### ◆あ! それを知りたかったん! 広報展示室「GO→FUNI～食を巡る旅～」

皆さんは、普段何気なく口にしてる食材がどこから来たかご存知ですか?日本と世界の「食」でのつながりを、触って学べる体験型の展示やパネルを通じて考えてみましょう!

■日 程＝10月13日(土)から12月10日(月)まで  
 ■時 間＝11時から18時まで(無休/入場無料)

◎申し込み・問い合わせ  
 JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)  
 TEL 078-261-0341(代表) FAX 078-261-0384  
 〒651-0073 神戸市中央区臨海通1-5-2  
 Eメール [jicacsic-event@jica.go.jp](mailto:jicacsic-event@jica.go.jp) <http://www.jica.go.jp/kansai/>

兵庫県こころのケアセンター

「こころのケア」シンポジウム参加者募集

兵庫県こころのケアセンターの研究報告と、「東日本大震災におけるこころのケアー被災地の今」をテーマとするパネルディスカッションを行います。

- ▶日時＝11月22日(木)13時30分～16時30分
- ▶場所＝兵庫県こころのケアセンター
- ▶プログラム  
第1部 研究報告 ー主任研究員による研究報告ー  
第2部 パネルディスカッション「東日本大震災におけるこころのケアー被災地の今ー」
- ▶定員＝200人
- ▶参加費＝無料
- ▶申し込み方法＝所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送またはFAXで下記へ。先着順で受け付け、定員になり次第、締め切ります。  
※兵庫県こころのケアセンターのホームページからプリントアウトできます

●申し込み・問い合わせ  
兵庫県こころのケアセンター研修情報課  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017  
<http://www.j-hit.org/>

「子どものこころのケア」ページの開設

兵庫県こころのケアセンターホームページに「子どものこころのケア」ページを開設し、次の2種類の資料を掲載しましたので、ぜひご覧ください。  
・こころからだのケアーこころが傷ついたときのためにー  
・子どものトラウマ診療ガイドライン  
<http://www.j-hits.org/>

学術交流センター

21世紀文明研究セミナー2012受講者募集

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構の研究成果を広く県民に還元するとともに、HAT神戸における国際関係機関等の集積を生かして、阪神・淡路大震災が提示した近代文明の課題について幅広く議論を深めるため、高度で専門的な知識を求める研究者、行政・企業関係者、NPO関係者、大学院生、一般県民等を対象とするセミナーを開催します。

- ▶日時＝10月～平成25年3月の水曜・金曜の午後(90分)
- ▶場所＝人と防災未来センター東館、兵庫県立美術館
- ▶内容＝①安全安心(安全安心・国際貢献)②共生社会(市民社会の担い手ー共生への取組ー)③防災(南海・東南海地震を踏まえた広域災害への対応)④環境(地域環境負荷の低減)及び⑤芸術(美術館は試みる)の5分野全30講座
- ※プレゼンテーション+ディスカッション形式で実施
- ▶定員＝各講座30名程度(先着順。1講座から受講申込み可能)
- ▶対象＝研究者、行政・企業関係者、NPO関係者、大学院生、一般県民等
- ▶受講料＝無料
- ▶申込方法

- (1)FAX又は郵送(リーフレット折り込みの受講申込書(※)をご使用ください。)  
※下記ホームページからダウンロードした受講申込書も使用できます。
- (2)E-mail(件名を「文明研究セミナー申込み」とし、①受講を申し込みとする講座の月日・テーマ名②氏名③性別④年齢⑤連絡先(住所・電話・Eメール)⑥ご所属名⑦ご職業を明記してお申し込みください。)

●問い合わせ先  
学術交流センター交流推進課  
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122 Eメール [gakujutsu@dri.ne.jp](mailto:gakujutsu@dri.ne.jp)  
[http://www.hemri21.jp/exchange\\_center/index.html](http://www.hemri21.jp/exchange_center/index.html)

平成24年度  
兵庫自治学会研究発表大会のご案内

兵庫自治学会では、平成24年度の研究発表大会を以下のとおり開催します。ぜひ積極的にご参加ください! (参加無料)

- ※参加申込書(チラシ)は<http://hapsa.net/>よりダウンロードいただけます
- ▶日時＝10月6日(土)10時～18時25分
- ▶場所＝兵庫県立大学・神戸学園都市キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)

※神戸市営地下鉄「学園都市」駅下車徒歩約10分  
▶大会テーマ 「地域主導による地域活性化に向けて」

人口減少社会のもと、過疎化、高齢化の進展により、多自然地域を中心に地域の活力が失われつつあります。このような中、地域主導による地域活性化の実現に向けて、地域の持つさまざまな資源を活用した地域力の創造や参画と協働による実践的な取組を通して、課題と解決策について考えます。



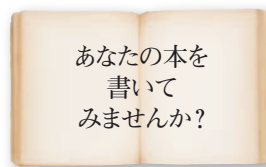
- 総会(10時～10時35分)
- 全体会(基調講演・対談)(10時45分～12時30分)  
基調講演 演題「地域力とは?ー地域力創造のカギ」  
講師 椎川 忍氏(総務省自治財政局長、前地域力創造審議員)  
対談 講師 椎川 忍氏(同上)  
金澤和夫氏(兵庫県副知事)  
コーディネーター 畑 正夫氏(兵庫県立大学地域創造機構教授)
- 分科会(13時20分～17時25分)  
第1分科会(地域づくり～地域主導による地域の元気づくり～)  
第2分科会(防災・安全安心～教訓を活かした安全安心の基盤づくり～)  
第3分科会(環境～自然と調和する持続可能な環境づくり～)  
第4分科会(産業・雇用～地域資源を活かした地域経済の活性化～)  
第5分科会(教育・福祉～誰もが暮らしやすい共生社会づくり～)
- 交流会(17時45分～18時25分)

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか?  
■会員になるには  
年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。  
兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人(会員数 約900人)

●申し込み・問い合わせ  
兵庫自治学会事務局  
((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 学術交流センター内)  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2  
人と防災未来センター東館6階  
TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122 Eメール [gakujutsu@dri.ne.jp](mailto:gakujutsu@dri.ne.jp)  
<http://hapsa.net/> (←入会フォームはこちら)

言葉を伝える

私に伝えた  
誰かのように



小説、自伝、詩集などあなたがお書きになった原稿をご予算に応じた自費出版プランでご提案いたします。また、各企業の記念誌等の企画・プロデュースもいたしております。どうぞお気軽にご相談ください。

ISO14001  
社内の印刷センターはISO14001の認証を取得しています。  
新聞印刷及び各種商業印刷



株式会社 神戸新聞総合印刷 印刷物の企画プロデュースから編集・印刷まで、ニーズに合わせてトータルに手がけます。  
☎078-362-7180  
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-5-7 <http://www.kobepn-printing.co.jp/>

企画・デザイン・編集・制作・新聞印刷・商業印刷  
出版印刷・新聞広告・雑誌広告・SP・イベント・IT事業

センターでは夏休み期間中に、子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種参加型プログラムを用意し、災害のこと、防災・減災のことを家族や友達と一緒に考えるイベントを行いました。

# 夏休み防災未来

## げんさいファクトリー 共振模型「ゆらゆら3兄弟」をつくろう!

牛乳やジュースなどの紙パックとペットボトルキャップを使って、建物の高さや揺れとの関係が学べる簡単な模型作りを行いました。土台を揺らす速さによって高い位置や低い位置の振り子の動きが違ってくることにびっくりしながら、小さな子どもから大人まで楽しく工作を行い、地震について学びました。



## げんさいファクトリー ロープワークで「本結びミサンガ」をつくろう!

災害救助の際のロープワークのひとつ「本結び」の結び方を覚えながら、麻紐を使ったオリジナル・ミサンガ作りを行いました。いざというときに役立つロープワークの知識を楽しみながら学び、作ったミサンガを手首に巻いたまま、館内を見学される子どもたちの姿が多くみられました。



## 〇〇を探し出そう! まくらテント体験

非常時にピンチを乗り越えるため、役立つグッズを暗いテントの中から探し出そう! 「水道が使えないため給水車がやってきました。なにを持っていく?」テントの中においてあるバケツやポリタンク、缶、ヘルメットなど、小さな子どもたちも一生懸命考えて探し出してくれました。



## おはなしひろば

7月22日、恒例の「おはなしひろば」を開催しました。絵本の読み聞かせや手遊びとてんとう虫を主人公にした紙芝居等のおはなし会に赤ちゃんから小学生まで楽しく参加しました。



## 津波の実験サイエンス・ワークショップ

7月21日と28日に、津波の仕組みや性質をミニチュアの津波発生装置を使って学びました。風による波と津波の水の動きや地形による変化を見るために波を起こすたび、子どもたちから歓声が上がりました。また、人と防災未来センターの佐伯琢磨研究員、マリ・リズ研究員によるミニレクチャーも行われ、子どもたちは集中して1時間の授業を受けました。



## ペットボトル地震計をつくろう!

8月4日と17日に、本物の地震計に触れ、地震計の仕組みの説明を聞いた上で、ペットボトルや乾電池を使ったペットボトル地震計を作りました。地震観測を行っている京都大学阿武山地震観測所の協力を得て作った地震計は、夏休みの宿題の工作にもなる作品となりました。



## もしものための備えを携帯! ハンカチ・ポーチをつくろう!

お気に入りのハンカチを使って、はじめてのソーイングを体験しながら、いざという時にも役立つグッズを入れるためのポーチを作りました。いつも持ち歩いている物が非常時に役立つことが多々あります。人と防災未来センターで配布されている減災グッズチェックリストにも載っている「0次の備え」のように、自分で作ったポーチに何を入れるのか、参加者は一生懸命考えていました。



## 地震体験車で地震の揺れを体験しよう!

神戸市民防災総合センターの協力を得て、近い将来発生が予想されている東海・東南海・南海地震の揺れを体験できる地震体験車を設置。想像よりも大きな揺れに驚いたり怖がる人たちもたくさんおり、「子どもを守るためにも家具の固定の必要性を感じた」というお母さんの言葉が印象的でした。





# 学校2012レポート

## 摂南大学「防災ヴィレッジ」 ストローで遊ぼう!

8月25日、摂南大学の大学生のお兄さんたちに、ストローにいろがみの羽をつけた飛行機の作り方を教えてもらって、出来上がった飛行機を飛ばしました。中には、5mの測定ラインを越え、部屋の壁まで飛んだ飛行機もあり、驚きの声が上がりました。



## 関西大学KUMC「Mission in Bosai!!」

8月19日と26日に関西大学のサークルKUMCのメンバーが、泥水の濾過実験や輪投げ等の防災・減災を学ぶいろいろな遊びを展開しました。優しいお兄さん、お姉さんと学びながら遊んでいる小さな子どもたちは、とても楽しそうでした。



## 摂南大学「防災ヴィレッジ」 変身ダンボール・1つの箱から机をつくろう!

避難所には机がなく不便です。遊ぶ場所がありません。そこで、余っている救援物資の入っていた段ボールで親子で楽しみながら机を作れば、すべて解決です。摂南大学の大学生のお兄さん、お姉さんたちに段ボールで机を作る方法を教わり、親子で机を作りました。さっそく完成した机の上でイベントアンケートを書きました。



## はじめての絵手紙教室 ～神戸から心届けよう～

「つづける、つなげる、つたえる」3つの「つ」の絵手紙教室が8月26日に実施されました。子どもたちが筆をぶらさげのように持つ独特の墨絵の描き方で、いろいろなモチーフの絵手紙に挑戦しました。「ヘタでいい、ヘタがいい」の心得で描いた作品は1月に展示される予定です。



## ぼうさい・げんさいゲームで遊ぼう!

8月19日、センターの石原凌河震災資料専門員の開発したゲームで日頃の防災・減災の心がけを考えるイベントを実施しました。

ゲームでは行動が二択になっており、同じ行動でも、次に引くカードが災害か日常かによってポイントが変わるようになっていて、ゲームを攻略しようとする、日常での行動を考える必要があります。

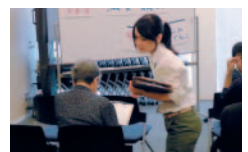
子どもたちはルールの飲み込みが早く、ゲームを攻略するために、自然に防災・減災につなげるにはどのような行動をすべきかを真剣に考えていました。



## 子ども減災講談「稲むらの火・つなみてんでんこ」

夏休み最後の9月1日と2日に講談師の太平洋さんによる減災講談が実施されました。津波からの避難についての有名なエピソードを伝統話芸で語るオリジナルの講談です。子どもたちは初めて見る講談に興味津々でした。

また、この日は神戸夙川学院大学のインターンシップの実習の一環として、実習生がビデオの記録を撮ったり、参加者アンケート等を行いました。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

## 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

**開館時間** 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)  
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)  
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

### 入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※( )は20人以上の団体料金  
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

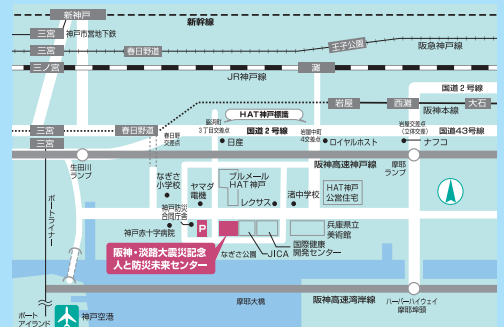
### 休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日  
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休  
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

### 交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
  - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
  - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅前から約15分
  - ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
  - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
  - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



## ●人と防災未来センター来館者が500万人を突破

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターは、平成14年4月27日のオープンから10周年を迎えた今年7月27日に、来館者延べ500万人を達成しました。

500万人目の来館者は、看護専門学校に通う澤山弘樹さんで、学校の先生にセンターのことを紹介されて、友人とともに来館されたとのことでした。

澤山さんには、人と防災未来センターの河田恵昭センター長より、防災グッズセット、センター長の著書などの記念品が贈られました。贈る際にセンター長が「これらが役立つこと（災害）がないほうが良い」と述べ、笑い声が起きました。

今後も、より多くの方にご来館いただき、防災、減災に役立てていただけるようスタッフ一同お待ちしております。



写真中央が澤山さん

## ●HAT神戸げんさい探検隊「第1回 DIG in HAT神戸」を実施



8月18日、センター10周年記念企画の一環として、「DIG in HAT神戸」が開催されました。DIGとは災害図上訓練の手法の一つでDisaster Imagination Gameの頭文字です。

この日はセンター近隣の親子7組が参加。自宅や学校、自分たちの町の川、道路、施設、特徴的な建物等を白地図に書き込んでいき、広域避難場所となった公園等への避難経路を考えてもらいました。

子どもたちもだんだん地図に慣れ、後半には早押しゲームのように建物を見つけたり、普段遊んでいる公園が避難場所と知って驚いたりしながら、いざという時の避難について家族で考える良い機会となりました。



## ●実践的防災研究についての意見交換会を実施

センターで実施している実践的防災研究について、8月7日に内閣府で意見交換会を実施しました。

当日は総務省や文部科学省等関係省庁の職員も出席するなか、災害対応の観点からみた東日本大震災の特殊性、地域の災害・防災を主題にしたミュージアムのあり方に関する研究、東日本大震災における地域メディアの活動状況に関する調査研究、生活基盤としての住まいの復旧・復興戦略に関する研究等センターのプロジェクト研究、中学校の総合学習の時間を活用した地域復興まちづくり学習プ

ログラムの構築、災害等に対する市民のリスク認知と最適なリスク情報提供のあり方についての研究等の研究員の個人研究について、これまでの研究成果や今後の研究方針についてセンター研究員が報告を行い、それを踏まえて意見交換が行われました。

スーパー広域災害時の国や自治体間の連携を強化するためには応援、受援の情報を共有できるように規格化していく必要があることなどいろいろと意見が交わされました。

センターではこの結果を踏まえて実践的防災研究をさらに進めていきます。

## ●感謝状をいただきました

災害時の情報収集にはラジオの果たす役割は大きく、東日本大震災でも臨時災害放送局がいくつも開局しました。

センターからは宇田川真之主任研究員がそれらの放送局にノウハウを提供する等の活動を行い、中央非常通信協議会から感謝状をいただきました。



当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部  
TEL 078-262-5580  
FAX 078-262-5587

●研究調査本部  
TEL 078-262-5570  
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター  
TEL 078-262-5050  
FAX 078-262-5055

●学術交流センター  
TEL 078-262-5713  
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2  
TEL 078-200-3010  
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を機構までお寄せください



**Hem21 NEWS**  
vol.35

平成24年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構  
〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)  
<http://www.hemri21.jp/>